

福島県沿岸域におけるシラウオの多獲（短報）

鷹崎 和義

A Large Catch of the Icefish *Salangichthys microdon* in the Coastal Region of Fukushima Prefecture (Short Paper)

Kazuyoshi TAKASAKI

福島県沿岸域では冬春期に船びき網やさし網でシラウオ漁が行われており、漁獲物のほとんどはイシカワシラウオ *Salangichthys isikawae* であるとされてきた¹⁻³⁾。また、青森県の太平洋沿岸域及び茨城県沿岸域でも、シラウオ漁で漁獲されている魚種はイシカワシラウオであると考えられていた^{4,5)}。しかし、本県沿岸域でシラウオ *S. microdon* がイシカワシラウオよりも多く漁獲された事例を確認したので報告する。

2010 年 2 月に、相馬双葉漁業協同組合相馬原釜支所及び鹿島支所の漁業者は、シラウオ船びき網の漁獲物を「川のシラウオ」と「海のシラウオ」と称する 2 群（以下、川群、海群と称する）に選別して販売していた。船ごとの群別漁獲量を市場での販売*時に調査したところ、川群の漁獲量が海群の漁獲量を上回る事例がみられ、中には川群のみを漁獲した船もあった（表 1）。両群から標本を抽出し、黒色素胞が尾鰭上に散在し尾柄部にはない個体をシラウオ、尾鰭上にはなく尾柄部にはある（上下一対）個体をイシカワシラウオと査定⁶⁾し、個体数を計数した。その結果、川群ではシラウオの割合が高く、海群ではイシカワシラウオの割合が高かった（表 1）。このことから、川群の漁獲量が海群の漁獲量を上回った事例においては、シラウオがイシカワシラウオよりも多く漁獲されていたと考えられる。なお、漁業者に選別方法を確認したところ、尾鰭に黒色素胞がある個体を川群、ない個体を海群としているとのことであった。

表1 シラウオ船びき網の群別漁獲量及び種の査定結果

月日	市場	船名	漁獲量(kg)			種別個体数			
			川群	海群	合計	標本と した群	シラウオ	イシカワ シラウオ	合計
2/9	原釜	A丸	15.6	0.0	15.6	川群	99	8	107
		B丸	15.0	8.7	23.7				
2/22	鹿島	C丸	3.2	1.6	4.8	海群	42	79	121
2/25	原釜	A丸	28.5	4.6	33.1	海群	0	169	169
		B丸	6.5	4.1	10.6				

*相馬双葉漁業協同組合の統計には「シラウオ」という銘柄しかなく、群別あるいは魚種別の漁獲量を統計資料から収集することはできない。

謝 辞

シラウオ漁獲物の入手にご協力いただいた相馬双葉漁業協同組合相馬原釜支所及び鹿島支所の職員の皆様に御礼申し上げます。

文 献

- 1) 竹内 啓：福島県産シラウオの研究－I 種の査定、福島水試研報、1、1-7 (1972)。
- 2) 鈴木 馨・岩上哲也・遠藤克彦：福島県富岡周辺海域における産卵期のイシカワシラウオ、福島水試研報、10、1-15 (2001)。
- 3) 福島県水産試験場：福島県主要魚種の漁獲量推移（昭和 40 年～平成 9 年）、福水試調査研究資料No. 279、29 (1999)。
- 4) 川端 淳・久保田清吾・石戸芳男・藤田敏彦・北川大二・飯塚景記：青森県太平洋岸におけるイシカワシラウオ *Salangichthys isikawae* の生物特性と資源量、東北水研研報、56、105-114 (1994)。
- 5) 堀 義彦：イシカワシラウオ *Salangichthys isikawai* の生活について I 成長・二次性徴・卵巣・抱卵数について、茨城水試研報、昭和 43 年度、41-46 (1969)。
- 6) 猿渡敏郎・沖山宗雄：日本産稚魚図鑑、東海大学出版会、69-72 (1987)。